3 ソフトウェア編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER^{TM}」には、Expressサーバを容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、Expressサーバの機能をより多く引き出すことができます。

CD-ROM「EXPRESSBUILDER」は、Expressサーバの設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

EXPRESSBUILDER

Expressサーバ

LAN

管理PC

セットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER（187ページ）

ディスクアレイ管理ユーティリティ

- Mylex DACコンフィグレーションユーティリティ*（193ページ）
- Global Array Manager Server*（212ページ）
- 自動クリーンアップツール*（218ページ）
- Array Recovery Tool*（220ページ）
- FastCheck（221ページ）

システム管理ユーティリティ

- ESMPRO/ServerAgent （206ページ）
- エクスプレス通報サービス（224ページ）
- システム診断ユーティリティ（245ページ）

テープデバイス管理ユーティリティ

- テープ監視ツール（227ページ）

* Express5800/110EeSではサポートしていません。

その他

各種オンラインドキュメント（HTML/PDF）

セットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER（187ページ）
- ExpressPicnic（197ページ）

システム管理ユーティリティ

ESMPRO/ServerManager（235ページ）

ディスクアレイ管理ユーティリティ

Global Array Manager Client（235ページ）

- ビルド・トゥ・オーダで購入した装置のハードディスクには電源管理をする次のユーティリティがインストールされている場合があります。それぞれのページを参照してセットアップをしてください（これらのユーティリティはEXPRESSBUILDERの中には含まれていません）。

  ー ESMPRO/UPSController Ver. 2.1（229ページ参照）
  ー PowerChute *plus* Ver. 5.11J/5.2J（233ページ参照）

- N8103-52 ディスクアレイコントローラのディスクアレイに関する設定は、ボード上のチップに搭載されたユーティリティ「RAID EzAssist」を使用します。ユーティリティはExpressサーバの電源をON後に始まるPOSTの間に起動させることができます。起動や操作に関する詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

EXPRESSBUILDERには「MWA」という管理ユーティリティがありますが、本装置ではサポートされていません。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの際にはハードウェアの構成を運用時と同じ状態にしてください。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

● EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

EXPRESSBUILDERをExpressサーバのCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でExpressサーバを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目からExpressサーバをセットアップします。

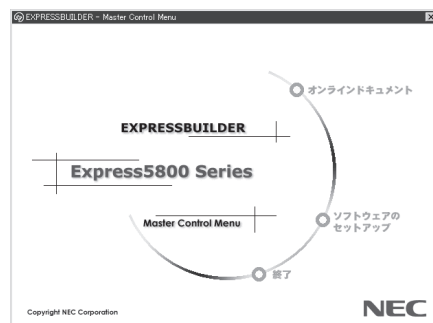
重要

- **Expressサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたExpressサーバ以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。**
- **メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。**

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows 95/98/Me、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。

EXPRESSBUILDERトップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

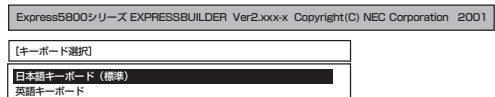
起　動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

1. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにする。
2. ExpressサーバのCD-ROMドライブへCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

キーボードの選択

EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、キーボードの選択メニューが現れます。購入したシステムで使用するキーボードを選択してください。 なお、このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。

1度設定を行った後、キーボードの設定を変更したい場合は、EXPRESSBUILDER起動中(画面中央部に「EXPRESSBUILDER」のロゴ表示があるとき)に<K>キーを数秒間押してください。画面にキーボード選択画面が現れ、キーボードの再設定ができます。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。

シームレスセットアップ

セットアップパラメータFDの情報を参照して、切れ目なく(シームレスに)セットアップを行います。 OSの再インストールを含むセットアップを行う場合、こちらのセットアップ方式を選択してください。

ツール

EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータによるセットアップを行います。また、インストール済みOSに影響を与えることなくセットアップを行うことができます。

ヘルプ

EXPRESSBUILDERについて説明します。 セットアップを実行する前に一通り目を通しておくことをお勧めします。

終了

EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。

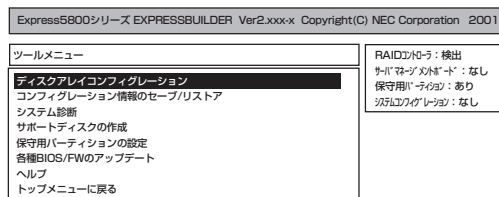
シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS（Windows 2000・Windows NT 4.0）、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく（シームレスで）セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。
購入時の状態と異なるハードディスクのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。
「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。

重要

- **「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクの内容が失われることがあります。**
- **セットアップを開始したら、完了するまで本体の電源をOFFにしないでください。**

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。

また、システム診断やサポートディスクの作成、保守用パーティションの設定を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。

- **ディスクアレイコンフィグレーションユーティリティ**

  このメニューはMylexディスクアレイコントローラが接続されているときに表示されます。

  メニューを選択すると確認メッセージが表示されます。表示されたメッセージに従って操作してください。このメニューからはユーティリティを起動することはできません。

- **コンフィグレーション情報のセーブ/リストア**

  このメニューはPROMISEディスクミラーリングコントローラが接続されているとき表示されます。

  ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存または、フロッピーディスクから復元することができます。

  - コンフィグレーション情報のセーブ

    フロッピーディスクにコンフィグレーション情報を保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。

  - コンフィグレーション情報のリストア

    フロッピーディスクからコンフィグレーション情報を復元します。「コンフィグレーション情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。

● **システム診断**

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。245ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● **サポートディスクの作成**

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要となるサポートディスクを作成します。 なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

－ Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

－ Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows NT 4.0をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

－ MS-DOS起動ディスク

MS-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

－ ディスクアレイコンフィグレーションユーティリティ

Mylexディスクアレイコントローラ（N8503-44）専用です。ディスクアレイコンフィグレーションユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

－ インストールシステム（セットアップ用MS-DOS）

NetWareをインストールするためのセットアップ用フロッピーディスクを作成します。

－ システム診断ユーティリティ

システムチェックプログラムの起動用のサポートディスクを作成します。

● **保守用パーティションの設定**

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「保守用パーティションの作成」以外の項目は表示されません。保守用パーティションの詳細については、8ページを参照してください。

重要

「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、Expressサーバをリセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

－ 保守用パーティションの作成

16MB 程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保し、続けて各種ユーティリティのインストールを行います。すでに保守用パーティションが確保されている場合は、各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

－ 各種ユーティリティのインストール

各種ユーティリティ共通部をCD-ROMから保守用パーティションへインストールします。

－ FDISKの起動

MS-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

- **各種BIOS/FWのアップデート**

インターネットで配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、ExpressサーバのBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『58番街』: http://express5800.com/

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。

BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

- **ヘルプ**

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

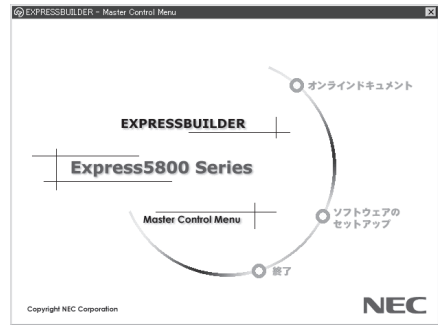
- **トップメニューに戻る**

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

マスターコントロールメニュー

Windows 95/98/Me、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。

システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows NTで動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。

オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストールしておいてください。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイルが開けないときがあります。そのようなときは262ページを参照して関連付けを再設定してください。

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Reader がインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックで現れるポップアップメニューから行います。

- **CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。**
- **メニューにある「MWA」という管理ユーティリティは本装置ではサポートされていません。**

Mylex DACコンフィグレーションユーティリティ

Mylex DACコンフィグレーションユーティリティは、オプションのN8503-44 ディスクアレイコントローラを使ったMylexディスクアレイコントローラ(以降「アレイコントローラ」と呼ぶ)およびディスクアレイシステムを構築するハードディスクに対して詳細な設定・制御をするためのソフトウェアです。

重要 Express5800/110EeSではこのソフトウェアをサポートしていません。

本ユーティリティの使用制限

通常、ディスクアレイシステムはEXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」でセットアップし、おもにGlobal Array Managerで管理・保守します。本ユーティリティは、次のような限られた場合でのみ使用します。

- オプションのN8503-44 ディスクアレイコントローラに対してシームレスセットアップでは設定できないような複雑なディスクアレイシステムを設定するとき
- オペレーティングシステムが起動しないような致命的な障害が発生したとき

使用上の注意

Mylex DACコンフィグレーションユーティリティを使用する前にお読みください。

- このユーティリティはオプションのN8503-44 ディスクアレイコントローラに接続されたハードディスクに対してディスクアレイを構築するためのものです。他のボードに対する設定はできません。
- ユーティリティの起動には、「DACコンフィグレーションFD」と呼ばれるフロッピーディスク(サポートディスク)が必要です。サポートディスクは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」からExpressサーバを起動したときに表示されるメニューから作成します(「ツール」の「ディスクアレイコンフィグレーションユーティリティ」または「ツール」の「サポートディスクの作成」ー「ディスクアレイコンフィグレーションユーティリティ」)。
- ユーティリティの使用方法やディスクアレイに関する用語の説明については、ExpressサーバにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」にあるオンラインドキュメントをご覧ください。
- 別のシステムなどでコンフィグレーション済みのアレイコントローラを使用する場合は、あらかじめコンフィグレーション情報をクリアしてください。

- Windows NT 4.0のインストールを行うときは、まずシステムドライブを1つだけ作成してインストールしてください。

  複数のシステムドライブを作成するときは、いったんインストールを行った後にシステムドライブを追加してください。再インストールのときも同様の手順で行ってください。また、RAID0のシステムドライブとRAID1やRAID5など冗長性(パリティなど)のあるRAIDのシステムドライブが1つのパック内に混在するような設定をしないでください。

- コンフィグレーション情報を作成/更新したときは、コンフィグレーション情報のバックアップを行ってください。

  自動再構築が実行されるとコンフィグレーション情報が更新されます。

  このような場合は、再度コンフィグレーション情報をバックアップしてください。故障したハードディスクを交換してスタンバイディスクの設定を行った後、バックアップすることをお勧めします

コンフィグレーション情報のバックアップを行っていないとコンフィグレーション情報が破壊された場合や誤って情報を変更してしまった場合に情報を復旧することができません。コンフィグレーション情報が正しくないとハードディスク内のデータは保護されず、その内容が失われてしまうことがあります。

RAID EzAssistコンフィグレーションユーティリティ

RAID EzAssistコンフィグレーションユーティリティは、オプションのN8103-52 ディスクアレイコントローラを使ったMylexディスクアレイコントローラ(以降「アレイコントローラ」と呼ぶ)、およびディスクアレイシステムを構築するハードディスクに対して詳細な設定・制御をするためのソフトウェアです。

重要

Express5800/110EeSではこのソフトウェアをサポートしていません。

本ユーティリティの使用制限

通常、ディスクアレイシステムはEXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」でセットアップし、おもにGlobal Array Managerで管理・保守します。本ユーティリティは、次のような限られた場合でのみ使用します。

- オプションのN8103-52 ディスクアレイコントローラに対してシームレスセットアップでは設定できないような複雑なディスクアレイシステムを設定するとき
- オペレーティングシステムが起動しないような致命的な障害が発生したとき

使用上の注意

RAID EzAssistコンフィグレーションユーティリティを使用する前にお読みください。

- このユーティリティはオプションのN8103-52 ディスクアレイコントローラに接続されたハードディスクに対してディスクアレイを構築するためのものです。他のボードに対する設定はできません。
- ユーティリティの使用方法やディスクアレイに関する用語の説明については、Expressサーバに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」にあるオンラインドキュメントをご覧ください。
- 別のシステムなどでコンフィグレーション済みのアレイコントローラを使用する場合は、あらかじめコンフィグレーション情報をクリアしてください。
- Windows NT 4.0のインストールを行うときは、まずシステムドライブを1つだけ作成してインストールしてください。

  複数のシステムドライブを作成するときは、いったんインストールを行った後にシステムドライブを追加してください。再インストールのときも同様の手順で行ってください。また、RAID0のシステムドライブとRAID1やRAID5など冗長性(パリティなど)のあるRAIDのシステムドライブが1つのパック内に混在するような設定をしないでください。

- コンフィグレーション情報を作成／更新したときは、コンフィグレーション情報のバックアップを行ってください。

  自動再構築が実行されるとコンフィグレーション情報が更新されます。

  このような場合は、再度コンフィグレーション情報をバックアップしてください。故障したハードディスクを交換してスタンバイディスクの設定を行った後、バックアップすることをお勧めします

コンフィグレーション情報のバックアップを行っていないとコンフィグレーション情報が破壊された場合や誤って情報を変更してしまった場合に情報を復旧することができません。コンフィグレーション情報が正しくないとハードディスク内のデータは保護されず、その内容が失われてしまうことがあります。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、Expressサーバのセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからExpressサーバをセットアップすることをお勧めします。

「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows 2000またはWindows NT 4.0をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

ExpressPicnicのインストール

セットアップパラメータFDを作成するためにWindows 2000または、Windows NT 3.51以降、Windows 95/98/Meで動作しているコンピュータにExpressPicnicをインストールします。

ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Me

Windows 2000、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

お使いになっているモデルによって画面に表示される内容が多少異なることがありますが、同じ手順でセットアップすることができます。

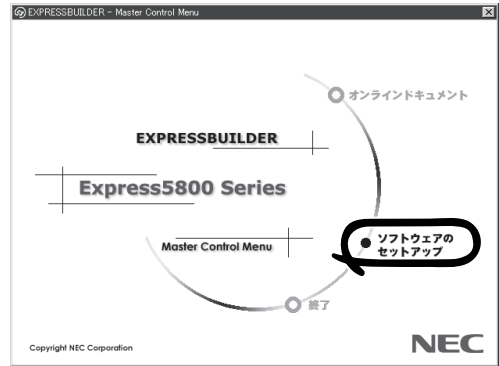
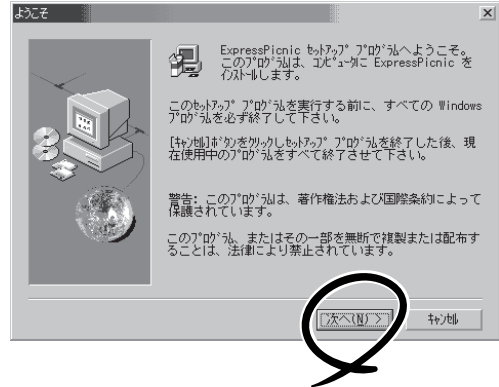
1. OSを起動する。
2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

   マスターコントロールメニューが表示されます。

3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックする。

メニューが表示されます。

4. [ExpressPicnic]をクリックする。

セットアップウィザードが起動します。

メッセージに従ってインストールを続けてください。

チェック

[ユーザの情報]ダイアログボックスの[シリアル番号]を入力する必要はありません。

インストールを完了したら[終了]ボタンをクリックし、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

Windows NT 3.51

Windows NT 3.51で動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

1. Windows NT 3.51を起動する。

2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。

3. ファイルマネージャまたはコマンドプロンプトから、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」の「¥WINNT¥PICNIC¥SETUP¥SETUP.EXE」を実行する。

セットアップウィザードが起動します。メッセージに従ってインストールを続けてください。インストールを完了したら、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

セットアップパラメータFDの作成

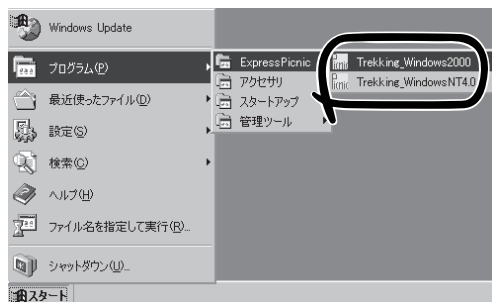
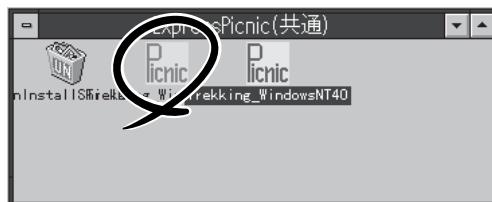
OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。

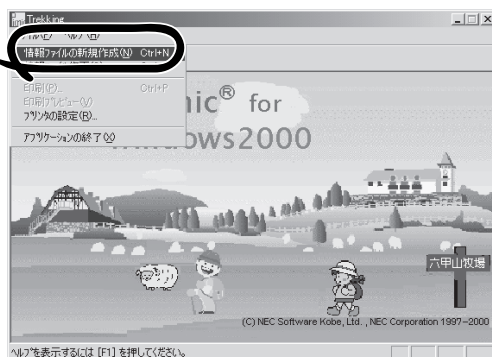
手順の中では、Trekkingコマンドをインストールしたときに指定したフォルダ名を「ExpressPicnic」と仮定しています。

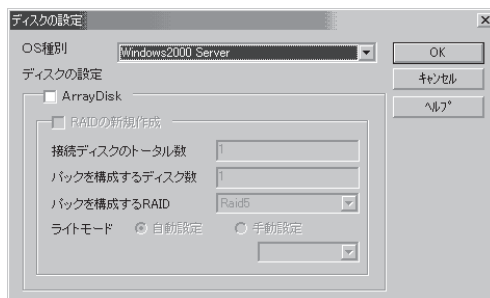
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる。

<Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Meの場合>

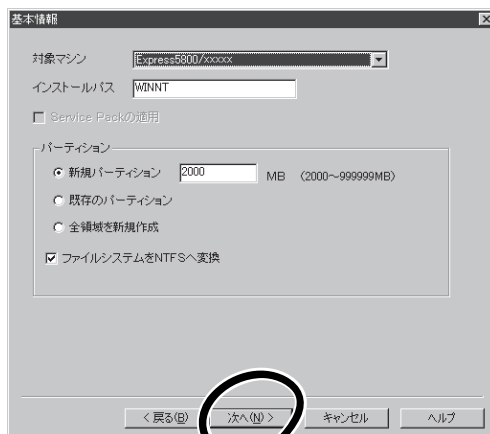
スタートメニューから[プログラム]－[ExpressPicnic]－[Trekking]の順にポイントし、インストールしたいOS([Windows NT 4.0]または[Windows 2000])をクリックする。

<Windows NT 3.51の場合>

プログラムマネージャの[ExpressPicnic]グループから[Trekking]アイコンをダブルクリックする。

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。

   [キャンセル]ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

   セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル保存]ダイアログボックスが表示されます。

5. [セットアップパラメータFD]チェックボックスをオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

6. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows 2000やWindows NT 4.0をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。

- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの[情報ファイルの修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。

追加アプリケーションのインストール

EXPRESSBUILDER CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

重要 **追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップ対応されている必要があります。**

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（199ページ参照）。
2. ［ファイル］メニューの［情報ファイルの新規作成］をクリックする。

   ［ディスクの設定］ダイアログボックスが表示されます。
3. 各項目を設定し、［OK］ボタンをクリックする。

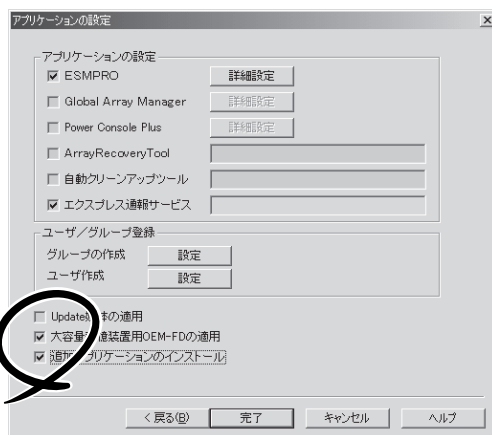
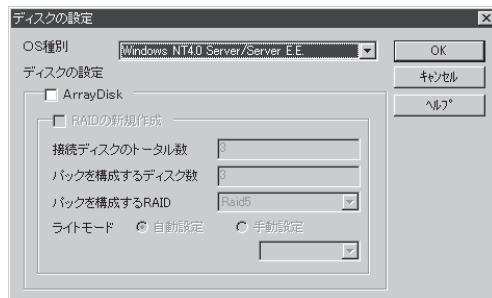
   ［基本情報］ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックス順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、［次へ］ボタンをクリックする。

   チェック

   ［キャンセル］ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。
5. ［アプリケーションの設定画面］が表示されたら、［追加アプリケーションのインストール］にチェックを入れる。
6. ［ファイル指定］ダイアログボックスが表示されたら、［セットアップパラメータFD］チェックボックスがオンになっていることを確認し、［ファイル名］ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、［OK］ボタン をクリックする。

ソフトウェア編

オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

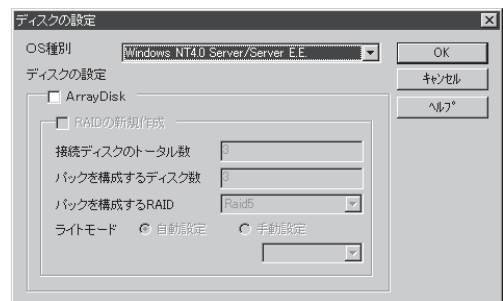
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（199ページ参照）。

2. ［ファイル］メニューの［情報ファイルの新規作成］をクリックする。

   ［ディスクの設定］ダイアログボックスが表示されます。

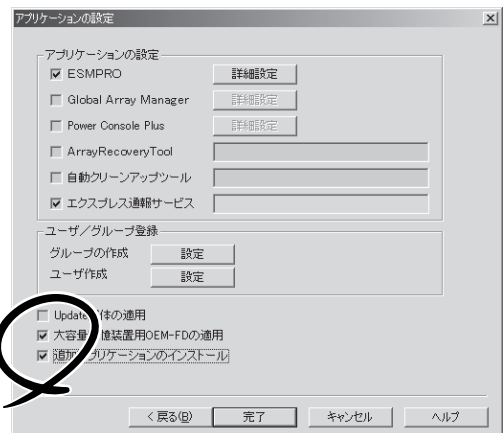
3. 各項目を設定し、［OK］ボタンをクリックする。

   ［基本情報］ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

ディスクの設定
OS種別 Windows NT4.0 Server/Server E.E.
OK
キャンセル
ヘルプ
ディスクの設定
ArrayDisk
RAIDの新規作成
接続ディスクのトータル数 3
パックを構成するディスク数 3
パックを構成するRAID Raid5
ライトモード 自動設定 手動設定

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、［次へ］ボタンをクリックする。

   ［キャンセル］ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. ［アプリケーションの設定］が表示されたら、［大容量記憶装置用OEM-FDの適用］にチェックを入れる。

   Windows 2000用のセットアップ情報ファイルを作成するとき、［ディスクの設定］で［OS種別］を［Windows 2000 Professional］にした場合は選択できません。

6. ［ファイル指定」ダイアログボックスが表示されたら、［セットアップパラメータFD］チェックボックスがオンになっていることを確認し、［ファイル名］ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

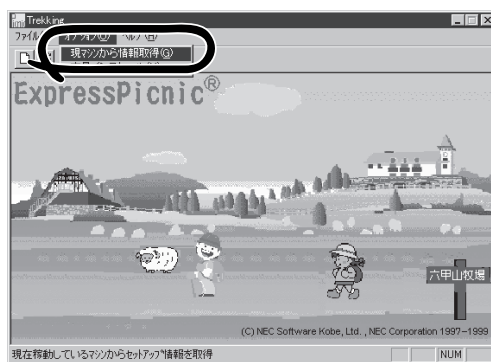
7. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、［OK］ボタン をクリックする。

コンピュータからの情報採取

ExpressPicnicが、起動しているマシンのセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します。

- ユーザ／グループ情報は採取できません。
- リモートアクセスサービス(RAS)については設定情報を採取できません。
- アプリケーションで設定情報を採取できるのは、ESMPRO/ServerAgentだけです。
- 取得できない情報に関しては、既定値を表示しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（199ページ参照）。
2. ［オプション］メニューの［現マシンから情報取得］をクリックする。

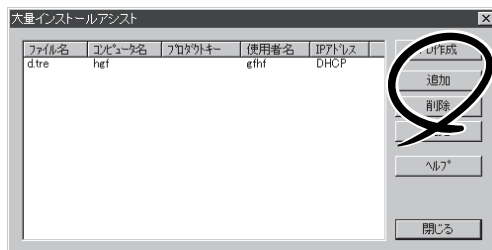
   取得後は、確認／修正画面に移ります。初期値が、取得したデータになっていることを除けば「情報ファイルの新規作成」、あるいは「情報ファイル修正」と同じです。

大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要のあるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

Windows 2000用セットアップ情報ファイルの作成

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（199ページ参照）。
2. ［オプション］メニューの［大量インストール］をクリックする。

3. [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。

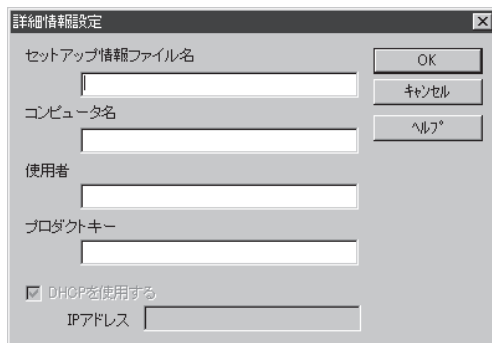
   ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。

4. [追加]ボタンをクリックする。

5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。

6. [OK]ボタンをクリックする。

   リストに追加した情報が表示されます。

7. ファイル名を選択し、[FD作成]ボタンをクリックする。

   選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。

Windows NT 4.0用セットアップ情報ファイルの作成

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(199ページ参照)。

2. [オプション]メニューの[大量インストール]をクリックする。

3. ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定する。

4. [セットアップパラメータFD作成時の設定]からどちらかのオプションを選択する。

[マシン毎にFDを作成]

1枚のセットアップパラメータFDにセットアップ情報ファイルを1つセーブします。

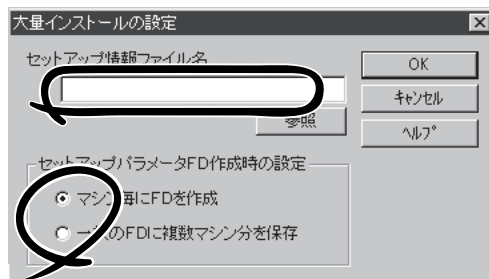
[一枚のFDに複数マシン分を保存]

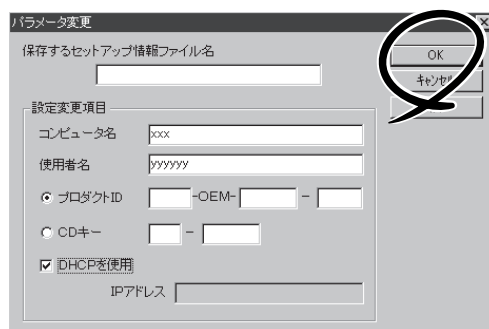
1枚のセットアップパラメータFDに複数のセットアップ情報ファイルをおさめます。

5. [OK]ボタンをクリックする。

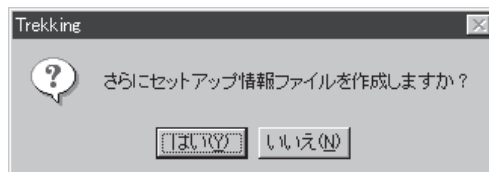
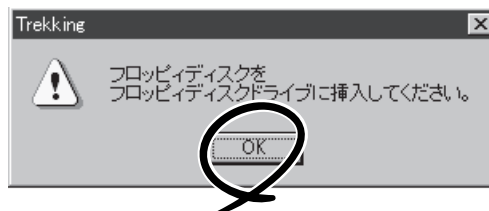
6. マシンごとに変更する必要のあるパラメータのみ修正して、セットアップ情報を作成する。

ダイアログボックスが表示されます。

7. 必要な設定を終えたら、[OK]ボタンをクリックする。

8. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。

しばらくすると、さらに情報ファイルを作成するかどうかの確認があります。

9. セットアップ情報を作成するときは、[はい]ボタンをクリックする。

セットアップ情報を作成するダイアログボックスが表示されます。

[いいえ]ボタンをクリックすると、ExpressPicnicウィンドウに戻ります。

[マシン毎にFDを作成]を選択した場合は、セットアップ情報ファイルを作成するたびにフロッピーディスクのセットを要求されます。[一枚のFDに複数マシン分を保存]を選択した場合は、同じフロッピーディスク上に作成したファイルをおさめるため、フロッピーディスクをセットする要求は1度しかありません。

Express本体用バンドルソフトウェア

Expressサーバにバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)はWindows 2000/Windows NTで運用しているExpressサーバにインストールするサーバ監視用アプリケーションです。EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。

ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)の使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)インストレーションガイド」を参照してください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはWindows 2000/Windows NTのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

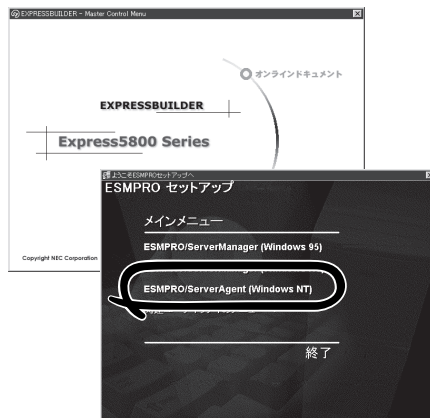
プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgentのインストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。Expressサーバ上のWindows 2000/Windows NT 4.0が起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[ESMPRO]ー[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。

重要

- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- Mylexディスクアレイコントローラを監視する場合は、Global Array ManagerおよびGAMドライバ(gamdrv.sys)をインストールする必要があります。EXPRESSBUILDERからESMPRO/ServerAgentのセットアップを起動すると、自動的にGlobal Array Managerのインストーラは起動しますが、GAMドライバはインストールされません。GAMドライバは事前にインストールしてください。
- AMIディスクアレイコントローラを監視する場合は、Power Console Plusをインストールする必要があります。EXPRESSBUILDERからServerAgentのセットアップを起動すると、自動的にPower Console Plusのインストーラが起動します。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。

アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. Expressサーバを再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

   エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

ESMPRO/ServerAgent(NetWare版)

ESMPRO/ServerAgent(NetWare版)はNetWareで運用しているExpressサーバにインストールするサーバ監視用アプリケーションです。

Express5800/110EeSではこのソフトウェアをサポートしていません。

ESMPRO/ServerAgent(NetWare版)の使用にあたっての注意事項や補足説明が「運用・保守編」の「トラブルシューティング(264ページ)」で説明されています。

インストール前の準備

動作環境を確認してください。

- **ハードウェア**

ー インストールする装置	Express5800/110Ee
ー メモリ	OSの動作に必要なメモリ+5.0MB以上
ー ハードディスクの空き容量	SYSボリュームに5.0MB以上

- **ソフトウェア**

NetWare 3.2J、NetWare 4.2(日本語版)(SFT IIIでは使用できません。)、NetWare 5(日本語版)、NetWare 5.1(日本語版)

NetWare OSのモジュール「CLIB.NLM」はバージョン3.12h以上を必ず使用してください。リブートやシャットダウンができなくなる場合があります。

インストール

インストールはサーバマシンから行います。

1. サーバのCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットし、CD-ROMボリュームをマウントする。

2. System Consoleから以下のように入力する。

   LOAD *ボリューム名:* ESMPRO¥I386¥AGENTNW¥SETUP

   (ボリューム名:CD-ROMのボリューム名)

   Console画面にサーバのモデル名と番号が表示されます。

3. 画面の指示に従ってインストールを続ける。

4. トラップ通知先マネージャの登録をする。

   サーバのトラップをESMPRO/ServerManagerに通知するためにサーバにトラップ通知先マネージャの登録をしてください。サーバのSYSボリュームのETC¥TRAPTARG.CFGファイルにIPXアドレスまたはIPアドレスを登録します。

ESMPRO/ServerManagerの設定によってはIPXでのトラップではサーバ名が表示されません。その場合はIPアドレスを登録してください。IPアドレスを使用する場合はNetWareのマニュアルを参照して、TCP/IPプロトコルの設定を行ってください。
TRAPTARG.CFGファイルについてはこの後の説明を参照してください。IPアドレスを使用する場合は、オペレーションウィンドウでNetWareサーバの発見に続いて、TCP/IPホストの発見も行ってください。

5. Time Zoneの設定を確認する。

サーバのSYSボリュームにあるAUTOEXEC.NCFファイルの先頭に以下のコマンドがあることを確認してください。詳細については、NetWareのマニュアルを参照してください。通常は、OSのインストール時に記述されます。

Set Time Zone = JST-9

6. SNMP.NLMのロードの順番を確認する。

AUTOEXEC.NCFファイルにSNMP.NLMのロードの記述がない場合にはインストーラがSNMP.NLMのロード行を追加します。SNMP.NLMを自動ロードするモジュールがある場合は、ESMPRO/ServerAgent(NetWare版)のインストーラが追加したSNMP.NLMのパラメータが有効にならない場合があります。NetWareのinstallユーティリティ(NetWare 5/5.1(日本語版)の場合は、NetWare環境設定ユーティリティ)でAUTOEXEC.NCFファイルを編集してください。

重要

TCPIP.NLMはSNMP.NLMを自動ロードするため、ESMPRO/ServerAgent(NetWare版)のインストーラが追加したSNMP.NLMのパラメータを有効にしません。

TCPIP.NLM以外にもSNMP.NLMを自動ロードするモジュールが存在する可能性がありますので注意してください。

ヒント

NetWareのinstallユーティリティ(NetWare5(日本語版)は、NetWare環境設定)の起動について

- NetWare 3.2Jの場合

  サーバのSystemConsoleで「load install」と入力し、[システムオプション]の[AUTOEXEC.NCFファイルの編集]メニューを選択します。

- NetWare 4.2(日本語版)場合

  サーバのSystemConsoleで「load install」と入力し、[NCFファイルオプション]の[AUTOEXEC.NCFファイルの編集]メニューを選択します。

- NetWare 5/5.1(日本語版)の場合

  サーバのSystemConsoleで「load nwconfig」と入力し、[NCFファイルオプション]の[AUTOEXEC.NCFファイルの編集]メニューを選択します。

7. Global Array Managerがインストールされていることを確認する。

ESMPRO/ServerAgent(NetWare版)でアレイシステムを管理する場合は、Global Array Manager Server(GAM Server)が必要です。サーバに「GAMAGENT.NLM(Ver.2.11s以上)」がロードされていることを確認してください。

GAM Serverがインストールされていない場合は、「Global Array Manager」を参照してインストールしてください。

ヒント

「modules」コマンドを使用するとサーバにロードされているモジュール名やバージョンが表示されます。

8. サーバを再起動する。

9. ラックマウントシステム名を入力する。
複数のサーバを1つのラックマウントシステムとして管理する場合は、サーバのSystemConsoleで以下のコマンドを使用して設定してください。

esm_rackname=＊＊＊
（＊＊＊はラックマウントのシステム名称で、任意の値。16文字以内の英数字（小文字のみ））

ヒント

同一ラックマウントシステムの2つ以上のサーバに対して同一のラックマウントシステム名称を設定してください。サーバのSystemConsoleで「esm_rackname」と入力すると現在設定されているラックマウントシステム名称が表示されます。

TRAPTARG.CFGファイルの作成

TRAPTARG.CFGファイルは、トラップメッセージの通知先マネージャを設定するファイルです。サーバのSYSボリュームのETCディレクトリに作成します。

<ファイルフォーマット>

```
Protocol <name>
通知先アドレス
通知先アドレス
    :
    :
```

<name>にはトラップを送信するために利用するプロトコル名（IPXまたはIP）を指定してください。通知先のアドレスには、ESMPRO/ServerManagerマシンのアドレスを指定してください。それぞれの通知先アドレスは異なる行に指定してください。

重要

通知先アドレスの先頭に必ずスペースを入れてください。

<TRAPTARG.CFGファイルの例>

```
Protocol IPX
        DEAD8022:0020AFECA22A
        DEAD8023:0020AFECA22A
Protocol IP
        198.22.2.25
        198.22.2.69
```

IPXアドレス設定部分の「DEAD8022」の部分はNetwork Addressを指定します。「0020AFECA22A」の部分はESMPRO/ServerManagerマシンのMAC Addressを指定します。「198.22.2.25」の部分はESMPRO/ServerManagerマシンのIPアドレスを設定します。IPXプロトコル使用時のNetWork AddressとMAC Addressは、トラップを受け取るESMPRO/ServerManagerマシン（クライアント）で調べます。

① トラップ送信元のサーバのSYSボリュームにネットワーク接続する。

② DOSプロンプトを起動する。

③ カレントドライブをPUBLICディレクトリに変更する。

④ NetWare OSのバージョンにより以下のコマンドを入力する。
NetWare 3.2Jの場合　userlist /a
NetWare 4.2(日本語版)/NetWare 5/5.1(日本語版)の場合　nlist user /a

以下のような実行結果となります。(ネットワークドライブをEドライブとした場合)

```
E:¥PUBLIC>nlist user /a
Object Class: User
Known to Server: U99_4X
Conn          = The server connection number
*             = The asterisk means this is your connection
User Name     = The login name of the user
Address       = The network address
Node          = The network node
Login time    = The time when the user logged in
Conn *User Name      Address      Node              Login Time
  -----------------------------------------------------------------------
1  MOMO            [33333333]  [          1]    96-09-10 10:08:00
2  YUU             [33333333]  [          1]    96-09-10 10:08:00
4  ADMIN           [DEAD8022]  [  20AFD650E6]   96-09-10 10:18:00
5* SUPERVISOR      [DEAD8022]  [  805FC20FEE]   96-09-10 11:12:00
A total of 4 User objects was found on server U99_4X.
```

⑤ TRAPTARG.CFGには実行結果で取得した「*」のついているユーザーのAddress:Nodeを指定する。

```
Protocol IPX
 DEAD8022:805FC20FEE
```

アンインストール

アンインストールはクライアントマシンから行います。

1. クライアントから対象サーバのSYSボリュームにネットワーク接続する。
2. ファイルマネージャなどでESMAGENTディレクトリとESMDATAディレクトリを削除する。
3. AUTOEXEC.NCFファイルの以下の行を削除する。

   SEARCH ADD sys:¥esmdata
   ESMSTART

4. サーバを再起動する。

Global Array Manager Server(Windows 2000/Windows NT版)

Global Array Manager(GAM)Server(Windows 2000/Windows NT版)はMylexディスクアレイシステムを構築しているWindows 2000/Windows NTサーバの監視・管理用のアプリケーションです。

重要 **Express5800/110EeSではこのソフトウェアをサポートしていません。**

GAM Serverの動作環境については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Server(Windows 2000/Windows NT版)インストレーションガイド」を参照してください。GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にGAM Serverがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのGAM Serverの管理者用アカウントである「gamroot」は作成していますが、パスワードを設定していません。このままでも使用できますが、セキュリティ保持の観点からパスワードを設定されることをお勧めします。

購入時にインストール済みのGAM Serverの設定内容についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Global Array Manager Server(Windows 2000/Windows NT版)インストレーションガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

GAM Serverは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。
シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Global Array Manager」を選択してください。「手動インストール(新規インストール)」の「GAM Serverをインストールする前に」で記載した内容を満足するようにシームレスセットアップ中のセットアップ情報を設定してください(DACドライバやGAMドライバはMylexディスクアレイコントローラが接続されたマシンのシームレスセットアップで自動的に組み込まれます)。

シームレスセットアップ後に設定をしなければならない項目は特にありません。
ただし、GAM ClientからGAM Serverを制御するために「adminstrator」権限を持つユーザ「gamroot」が必要です。シームレスセットアップではこの「gamroot」を作成します。シームレスセットアップでGAMをインストールするときはシームレセットアップの設定時に「gamroot」のパスワードを設定することをお勧めします。
パスワードを設定しないとセキュリティ上の問題が発生する可能性があります。

手動インストール(新規インストール)

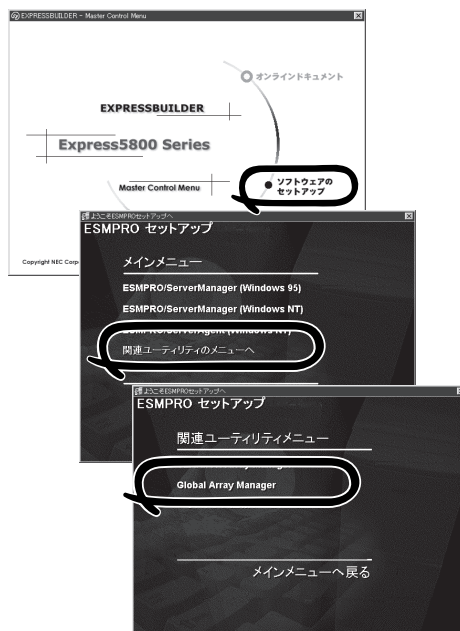
手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。
インストールに関する詳しい手順については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版) インストレーションガイド」を参照してください。また、GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

GAM Serverをインストールする前に

GAM Server(Windows 2000/Windows NT版)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- DACドライバが組み込み済みであること
- GAMドライバが組み込み済みであること(N8503-43/44/49を接続したWindows NT 4.0システムの場合)
- TCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
  36ページ(Windows 2000)、53ページ(Windows NT)を参照してください。
- SNMPサービスの設定が終了していること
  ESMPROと連携する場合GAM Serverのインストールに先立って設定を終了させておく必要があります。

GAM Serverのインストール手順

GAM Serverのインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」と書かれたCD-ROMを使用します。
Windows 2000/Windows NT 4.0ではEXPRESSBUILDERのCD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[ESMPRO]ー[関連ユーティリティメニューへ]ー[Global Array Manager]の順にクリックします。ここで表示される[セットアップオプションの選択]ダイアログボックスの[GAM Serverインストール]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください(各ダイアログボックスでの推奨する操作をヒントにまとめています)。

- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- GAM Serverのインストール後は必ずシステムを再起動してください。

- ［Modify Configuration File］ダイアログボックスでは［いいえ］をクリックしてください。
- ［Setup Complete］ダイアログボックスで［No, I will restart my computer later］を選択してください。
- ［セットアップの完了］ダイアログボックスの［Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます］はチェックしてください。

GAM Serverの環境設定

● GAMの管理者用アカウントgamrootの登録

GAMを使用する場合、GAMの管理者用のアカウントであるgamroot(すべて小文字)というユーザが必要です。Windows 2000/Windows NTのユーザマネージャで登録してください。gamrootが所属するグループにはAdministrators(ドメインサーバの場合はDomain Admins)を追加してください。

カスタムインストールモデルなどでGAM Serverをインストールして出荷している装置については、gamrootユーザは登録済みです。ただし、パスワードを設定していません。セキュリティ保持の観点から必ず、パスワードを設定するようにしてください。

● GAM Serverの環境設定ファイルの修正

［セットアップの完了］ダイアログボックスの［Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます］をチェックした場合、この作業は不要です。なお、修正する場合はオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版)インストレーションガイド」を参照してください。

Global Array Manager Server(NetWare版)

Global Array Manager(GAM)Server(NetWare 版)はMylexディスクアレイシステムを構築しているNetWareサーバの監視・管理用のアプリケーションです。

重要 **Express5800/110EeSではこのソフトウェアをサポートしていません。**

Mylexディスクアレイシステムが、N8103-53/52の場合は、Mylexディスクアレイシステムに添付のマニュアルを参照してインストールしてください。
Mylexディスアレイシステムが、N8503-43/44/49の場合は、これ以降の説明を参考にしてインストールしてください。また、GAMの操作方法についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER 」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

動作環境

動作環境を確認してください。

- **ハードウェア**

− インストールする装置	Express5800/110Ee + Mylexディスクアレイシステム
− メモリ	OSの動作に必要なメモリ+1MB以上
− ハードディスクの空き容量	2MB以上

- **ソフトウェア**

  NetWare 3.2J、NetWare 4.2(日本語版)(SFT IIIでは使用できません。)、NetWare 5(日本語版)

- **対応するGAM Client**　　GAM Client 2.15

GAM Serverをインストールする前に

GAM Server(NetWare版)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- インストール用のフロッピーディスクを用意していること(この後の手順で作成します)。
- 制御の対象となるアレイコントローラが取り付けられていること。
- Mylexアレイドライバのバージョンが5.00mであること。

サーバのSystem Consoleで「modules mdac]と入力するとモジュールのバージョンを確認することができます。

EXPRESSBUILDERのCD-ROMの以下のディレクトリに、バージョンが5.00mのアレイドライバが格納されています。

- **NetWare3.2J: NetWare¥v3_x　ディレクトリ**
- **NetWare4.2: NetWare¥v4_x¥old　ディレクトリ**
- **NetWare5.0: NetWare¥v5_x¥old　ディレクトリ**

● NetWareのTCP/IPの設定が終了していること。

TCP/IPの設定については、NetWareのマニュアルを参照してください。

インストール用のフロッピーディスクの作成

次の手順でインストール用のフロッピーディスクを作成します。フォーマット済みフロッピーディスクを1枚用意してください。

NetWareのシステムコンソールから「DOWN」、「EXIT」を実行すると、MS-DOS環境になります。
Switchコマンドを使用してCD-ROMドライブが使える環境に切り替えてください(Switchコマンドを使った環境の切り替え方法は、導入編のNetWareのインストールを説明している章で記載されています)。

1. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブに、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」のディレクトリ「¥esmpro¥i386¥gam2¥nw¥ver2.20¥」にあるすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーする。
3. フロッピーディスク内にコピーしたすべてファイルの属性を「読み取り専用」から「読み書き可能」に変更する。

インストール

次の手順に従ってNetWareで動作しているExpress5800シリーズ本体にGAM Server(NetWare版)をインストールします。

1. インストール用のフロッピーディスクを装置本体のフロッピーディスクドライブにセットする。
2. NetWareのシステムコンソールで「a:¥install」と入力して、<Enter>キーを押す。
3. 画面の指示に従いインストールを行う。
4. INSTALL.NLM(NetWare 3.2JおよびNetWare 4.2(日本語版)の場合)か、NWCONFIG(NetWare 5(日本語版)の場合)をロードしAUTOEXEC.NCFファイルの編集を選ぶ。

   AUTOEXEC.NCFファイルにはインストールによってLOAD GAMEVENT行が追加されています。

   修正例を参考にLOAD GAMEVENT行のコメント「#」を削除してGAM ClientマシンのIPアドレスを記述してください。次の行にGAMAGENTのLOAD行を追加してください。

   修正例)

   修正前：　#LOAD GAMEVENT -h <IP Address>
   修正後：　LOAD GAMEVENT -h 123.45.67.89 - 123.45.67.90
   　　　　　LOAD GAMAGENT

5. Expressサーバを再起動する。

GAMSERV.NLMとGAMAGENT.NLMがロードされていることを確認してください。

もしロードされていない場合は、mdac.hamのバージョンが5.00mであることを確認してください。また、AUTOEXEC.NCFファイルにある次の行をsysボリュームのマウントコマンドの直後に移動してください。

LOAD GAMSTUBS

ヒント

System Consoleで「modules」と入力するとロードされているモジュールの一覧が表示されます。

AUTOEXEC.NCFの編集は、INSTALL.NLM(NetWare 3.2J 、およびNetWare 4.2(日本語版)の場合)か、NWCONFIG(NetWare 5(日本語版)の場合)をロードし「AUTOEXEC.NCF ファイルの編集」を選択するとできます。

6. 環境設定をする。

NetWareサーバに「gamroot」という名前でユーザーアカウントを作成してください。
NDS環境の場合は「gamroot」をバインダリコンテキスト上に作成してください。

アンインストール

次の手順に従ってGAM Server(NetWare版)をアンインストールします。

1. INSTALL.NLM(NetWare 3.2JおよびNetWare 4.2(日本語版)の場合)か、NWCONFIG(NetWare 5(日本語版)の場合)をロードしAUTOEXEC.NCFファイルの編集を選ぶ。

2. 次の5行を削除する。

LOAD GAMSTUBS
LOAD GAMSERV
LOAD GAMEVENT ・・・・・
#LOAD RAIDBLD ・・・・・
LOAD GAMAGENT

3. Expressサーバを再起動する。

自動クリーンアップツール

自動クリーンアップツールはMylexディスクアレイの整合性をチェックし、検出した不整合を修復するアプリケーションです。

重要 Express5800/110EeSではこのソフトウェアをサポートしていません。

自動クリーンアップツールの動作環境や使用方法については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時に自動クリーンアップツールがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みの自動クリーンアップツールは、スケジュールの設定がされていません。スケジュール設定については、後述の自動クリーンアップツールの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照し、設定してください。

購入時にインストール済みの自動クリーンアップツールの設定内容についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

自動クリーンアップツールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます(DACドライバやGAMドライバはMylexディスクアレイコントローラが接続されたマシンのシームレスセットアップで自動的に組み込まれます)。
シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「自動クリーンアップツール」を選択してください。なお、「手動インストール(新規インストール)」の「自動クリーンアップツールをインストールする前に」で記載した内容を満足するようにシームレスセットアップ中のセットアップ情報を設定してください。

シームレスセットアップではスケジュール設定が行えません。スケジュール設定については後述の自動クリーンアップツールの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照し、設定してください。

手動インストール(新規インストール)

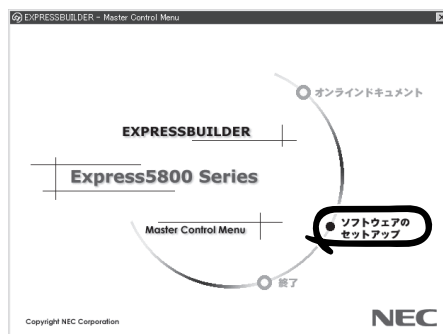
手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。
インストールや操作に関する詳しい手順については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照してください。

自動クリーンアップツールをインストールする前に

自動クリーンアップツールをインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- DACドライバが組み込み済みであること
- GAM Server(GAMドライバ)が組み込み済みであること
- システムのアップデートが終了していること
  36ページ(Windows 2000)、53ページ(Windows NT)を参照してください。

自動クリーンアップツールのインストール手順

自動クリーンアップツールのインストールは添付CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。Windows 2000/Windows NT 4.0ではEXPRESSBUILDER CD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[自動クリーンアップツール]をクリックします(またはダイアログボックス上で右クリックすると表示されるポップアップメニューから選択します)。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。

重要 **アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。**

自動クリーンアップツールの環境設定

自動クリーンアップツールのスケジュール起動はWindows 2000/Windows NTの標準機能であるATコマンドのスケジュール機能を利用します。この場合、scheduleサービスが実行中でなければなりません。
scheduleサービスの起動はコントロールパネルの[サービス]をダブルクリックして表示される[サービス]ダイアログボックスで行います。

- サービスの設定はAdministratorsローカルグループのメンバであるユーザアカウントでログオンする必要があります。
- scheduleサービスのスタートアップは「自動」に設定しておくことをお勧めします。

Array Recovery Tool

Array Recovery Toolは、Mylexディスクアレイコントローラに接続されているハードディスクの状態を監視し、不良ハードディスク(DEAD状態)を検出すると自動的にリビルド、整合性チェックを行い、システムドライブを復旧します。

重要 **Express5800/110EeSではこのソフトウェアをサポートしていません。**

Array Recovery Toolのインストールは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。インストール終了後に特別な設定などをする必要はありません。
Array Recovery Toolのインストールや動作環境の設定についてはEXPRESSBUILDER内のオンラインドキュメントを参照してください。

FastCheck

FastCheckは、オプションのディスクミラーリングボードに添付の管理・監視ソフトウェアです。

ディスクミラーリングコントローラに接続したハードディスク(アレイディスク)の監視や状態の表示をしたり、万一、異常が起きたときにビープ音やポップアップメッセージの表示などで通知したりします。

また、ESMPRO/ServerAgent(Ver.3.4以降)との連携により、異常が起きたときにESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PCにアラート通報やALIVE通報をすることもできます。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にFastCheckがあらかじめインストールされている場合もあります。
FastCheckがインストール済みのExpressサーバに後からESMPRO/ServerAgentをインストールした場合は、FastCheckを一度アンインストールし、再インストールしてください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ ～Express5800/110EeSをご使用の場合～

FastCheckは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「FastCheck」を選択してください。
シームレスセットアップでFastCheckをインストールした場合で、後からESMPRO/ServerAgentをインストールした場合は、FastCheckを一度アンインストールし、再インストールしてください。

確認事項

インストール済みのFastCheckについて次の点を確認してください。

- [スタート]メニューの[プログラム]に[Promise]という名前のフォルダが作成されていることを確認する。
- Windows 2000/Windows NT 4.0の起動後のタスクトレーに、FastCheckのアイコン( )が表示されていることを確認する(FastCheckはWindows 2000/Windows NT 4.0常駐型のアプリケーションです)。
- コントロールパネルのサービスで「Promise FastTrak Service」が開始されていることを確認する。

- FastCheckが起動することを確認する。

  [Promise]フォルダの中から[Fasttrak]ー[FastCheck Monitoring Utility]の順に選択するか、タスクトレーのFastCheckアイコン()をダブルクリックすると起動します。

- FastCheckを起動後、[オプション]ー[通知]エリアー[NT システムイベントログの使用]がチェックされていること(デフォルト値です)を確認する。

重要 **ESMPRO/ServerManagerをインストールした管理PCにディスクミラーリングコントローラに関するアラート通報やALIVE通報をする場合は、「Promise Fast Trak Log Service」が開始されていること、およびFastCheckのオプション設定[NT システムイベントログの使用]がチェックされていなければいけません。**

パスワードの設定

セキュリティ上、FastCheckを起動する際にパスワードによる確認ができるよう、パスワードを登録してください。パスワードはFastCheckを起動後、[オプション]ー[パスワードを使用可能にする]を選択すると設定する画面が表示されます。

運用上の注意

FastCheckをインストールして運用する上で特に注意していただきたい点について説明します。FastCheckで表示される画面についての説明やその他の注意事項については、オンラインドキュメント「FastCheckユーザーズガイド」を参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.4以降がインストールされているExpressサーバにFastCheckをインストールすることをお勧めします。ESMPROと連携したさまざまな管理・監視機能を利用することができます(ESMPROがインストールされていなくても、FastCheckの動作には支障がありません)。

  ただし、ESMPROはVer.3.4以降のバージョンを使用してください。

- FastCheckの設定を変更した場合は、ダイアログボックス内にある[Apply]ボタンをクリックして情報を更新してから終了してください。

- FastCheckの以下オプションは規定値から変更しないでください。

  ー[NTシステムイベントログの使用]　(規定値:　チェック)

  ー[書き込みキャッシュを使用可能にする]　(規定値:　チェック)

  ー[ホットスペア/自動再構築を禁じる]　(規定値:　チェックなし)

- ディスクのリビルドやシンクロナイズ(整合性の確認)の間もアクセスすることはできますが、処理時間が長くなる場合があります。

- ESMPROからは、ディスクミラーリングコントローラで制御されているハードディスクは、1台のドライブとして認識されます。また、このディスクミラーリングコントローラはディスクアレイではなく、「SCSIコントローラ」として管理されます。

新規インストール

FastCheckを新規にインストールする場合(または再インストールする場合)は、オンラインドキュメント「FastCheckユーザーズガイド」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。
また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント／サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]ボタンをクリックする。
   アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。
   [エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。
   エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ　18.0MB以上
- ハードディスクの空き容量　30.0MB以上
- モデム
  ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデムが必要です。ダイヤルアップ経由のエクスプレス通報で使用するモデムはNECフィールディングにご相談ください。
- メールサーバ
  電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- Microsoft® Windows® 2000 日本語版(Server/Advanced Server/Professional)
- Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Server/Workstation)
- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.1以降

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。
また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

テープ監視ツール

テープ監視ツールは、Expressサーバに搭載したテープドライブ、ならびに使用しているテープメディアの状態を監視するユーティリティです。
ヘッドの汚れや不良テープの使用などによるバックアップファイルの消失やバックアップの失敗などを防止するために、テープドライブを搭載している装置にはこのユーティリティをインストールすることをお勧めします。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にテープ監視ツールがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのテープ監視ツールのサービスを次のように設定してください。
サービスの設定は[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックすると起動します。

- 選択するサービス名: TapeAlertChecker
- スタートアップの種類: 自動
- ログオン: システムアカウント
  [デスクトップとの対話をサービスに許可]にチェック

サービスに[TapeAlertChecker]がない場合は、装置にインストールされていません。次の「手動インストール(新規インストール)」を参照してインストールしてください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。詳しくはオンラインドキュメントの「テープ監視ツールセットアップガイド」をご覧ください。オンラインドキュメントは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにPDFファイルで格納されています。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥SG_TP2.pdf

動作環境

ハードウェア

- インストールする装置　Express5800/50、100、600シリーズ本体
- メモリ　500KB以上
- ハードディスクの空き容量　2.2MB以上

ソフトウェア

- オペレーティングシステム
  - Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Service Pack 5以降)
  - Microsoft® Windows® 2000 日本語版*

* 「テープ監視ツール Ver.1.0」はWindows 2000をサポートしていません。

- アプリケーション
  - ARCserve J6.0 for Windows NT (SP3)(全エディション)
  - ARCserve J6.5 for Windows NT(全エディション、Patch07が必要)
  - ARCserveIT J6.61 for Windows NT(全エディション)
  - BackupExec for Windows NT Ver.7.3
  - NTBackup(Windows NT標準装備のバックアップツール)

監視対象装置

テープ監視ツールで監視できるテープドライブは次のとおりです(2001年5月現在)。

- 内蔵/外付 AIT　N8151-28/-34、N8551-19/-28/-34、N8560-16
- 内蔵/外付 AIT集合型　N8151-29、N8551-20/-29/-36、N8560-17
- 内蔵/外付 DAT(DDS3)　N8151-12BC、N8551-12/-12A/-12BC、N8560-12/-12AC
- 内蔵/外付 DAT集合型(DDS3)　N8551-13/-13AC、N8560-13/-13AC
- 内蔵TRAVAN　N8551-21
- 外付TRAVAN集合型　N8560-19
- 内蔵/外付 DAT(DDS4)　N8151-26、N8551-26、N8560-22
- 内蔵/外付 DAT集合型(DDS4)　N8151-27、N8551-27、N8560-23

アプリケーション	ドライブ					
	AIT	AIT集合型	DAT (DDS3/4)	DAT集合型 (DDS3/4)	TRAVAN	TRAVAN 集合型
ARCserve J6.0 (SP3)	×	×	×	○	×	×
ARCserve J6.5	○*	○*	○*	○	○*	○*
ARCserve J6.61	○	○	○	○	○	○
NTBackup	○	ー	○	ー	○	ー
BackupExec Ver7.3	○	○	○	○	○	○

○: サポート　×: 未サポート　ー: 対象外
* ARCserve J6.5 Patch07が必要

インストール手順

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにある「Setup.exe」をエクスプローラなどから起動してください。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥setup.exe

以降は画面に表示されるメッセージに従ってください。詳しくはオンラインドキュメントで説明しています。
インストールの完了後、サービスが動作していることを確認してください。前ページの「カスタムインストールモデルでのセットアップ」の説明を参照してください。
監視についての詳細な設定は、iniファイルを編集することで変更できます。iniファイルは「C:¥Program Files¥TapeAlertChecker¥Ctrl.ini」です(デフォルトの設定でインストールした場合)。設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/UPSController Ver.2.1

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるESMPRO/UPSController Ver.2.1について説明します。

Express5800/110EeSではこのソフトウェアをサポートしていません。

ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

インストール済みのESMPRO/UPSControllerのセットアップ

Expressサーバのモデルの中には出荷時に「ESMPRO/UPSController」がインストール済みの場合がありますが、設定値はデフォルト値のままになっている場合があります。
ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

ESMPRO/UPSControllerサービス(SPOC-I Service)の起動

[サービスコントロールマネージャ]を開き、[SPOC-I Service]を開始してください。
すでに、[SPOC-I Service]が開始されている場合はそのままでかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

SPOC-I Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。
動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示すの処理を行う必要はありません。

■ 確認1　イベントビューアによる確認

Windows 2000/Windows NTの「イベントビューア」でESMPRO/UPSControllerが正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「SPOC-I Service」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

[正常]　UPS通信開始
[異常]　UPS通信エラー(無応答)
このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

ソフトウェア編

■ 確認2　ESMPRO/UPSControllerのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. ［スタート］メニューの［プログラム］ー［ESMPRO_UPSController］ー［UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ］を起動する。

   起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. ［UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ］のメイン画面（チャート）でUPSの情報が表示されていることを確認する。

   ［正常］　UPS情報の「商用電源の値（V）」、「商用最大電圧の値（V）」、「商用最小電圧の値（V）」、「負荷容量の値（%）」等が表示される。
   ［異常］　UPS情報の「商用電源の値（V）」、「商用最大電圧の値（V）」、「商用最小電圧の値（V）」、「負荷容量の値（%）」等が表示されない。
   この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. ［スタート］メニューの［プログラム］ー［ESMPRO_UPSController］ー［UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ］を起動する。

   起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. ［UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ］のメニューバーより、［設定］ - ［動作環境の設定］を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。

3. 正しく設定した後、［UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ］のメニューバーより、［ファイル］ー［上書き保存］を選択し、設定を保存する。

4. ［コントロールパネル］の［サービス］を開き、［SPOC-I Service］を再起動する。

5. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

ESMPRO/UPSController Ver2.1を新規にインストールする手順を説明します。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストール

現在コンピュータにインストールされているESMPRO/UPSControllerをアンインストールしてください。
ESMPRO/UPSControllerのアンインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってアンインストールしてください。
ESMPRO/UPSControllerのアンインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。
アンインストール後は、必ずコンピュータを再起動してください。

インストール

ESMPRO/UPSControllerのインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってインストールしてください。
ESMPRO/UPSControllerのインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アップデートインストール

アップデートは次の手順に従ってください。

1. Administratorsローカルグループに所属するユーザーでログオンする。
2. 安全のために、必要最小限のアプリケーション(Serverサービスなど)を除くアプリケーションを終了する。
3. 「スタートメニュー」―「設定」―「コントロールパネル」―「サービス」で次のサービスを停止する。
   - SPOC-I Service
   - ESMPRO/ARC Service
   - SNMP Service
4. 「ExpressServerStartup」のCD-ROMをCD-ROMドライブに、「ESMPRO/UPSController Ver2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)をフロッピーディスクドライブにセットする。
5. 「ExpressServerStartup」CD-ROMの中にある「SETUP.EXE」を起動する。

   ESMPRO/UPSControllerのアップデートが開始されます。
6. アップデート完了後、システムを再起動する。

7. 再起動後、ESMPRO/UPSControllerマネージャを起動し、ESMPRO/UPSControllerのバージョンを確認する。

```
ESMPRO/UPSController Version 2.1
```

以上でアップデートは終了です。

PowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2J

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるPowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2Jについて説明します。

ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

Expressサーバのモデルの中には出荷時に「PowerChute *plus*」がインストール済みの場合があります。ただし、PowerChute *plus*はデフォルト値の状態でインストールされています。ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

PowerChute *plus*サービス(UPS-APC PowerChute *plus* Service)の起動

[コントロールパネル]の[サービス]を開き、[UPS-APC PowerChuteplus Service]を開始してください。すでに[UPS-APC PowerChuteplus Service]が開始されている場合はそのままでかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

UPS-APC PowerChute *plus* Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。
動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

■ 確認1　イベントビューアによる確認

Windows 2000/Windows NTの「イベントビューア」でPowerChute *plus*が正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「UPS」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

[正常]　UPSとの通信が確立しました。
[異常]　UPSとの通信が確立できません。
このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

■ 確認2　PowerChute *plus*のGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、次の手順でUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. ［スタート］メニューの［プログラム］－［PowerChutePLUS］－［PowerChutePLUS］を起動する。

   起動方法の詳細はPowerChute *plus*の「インストールガイド」を参照してください。

2. ［PowerChutePLUS］のメイン画面（チャート）でUPSの情報が表示されていることを確認する。

   ［正常］　データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが表示される。

   ［異常］　UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などがグレーアウトで表示されている。
   この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

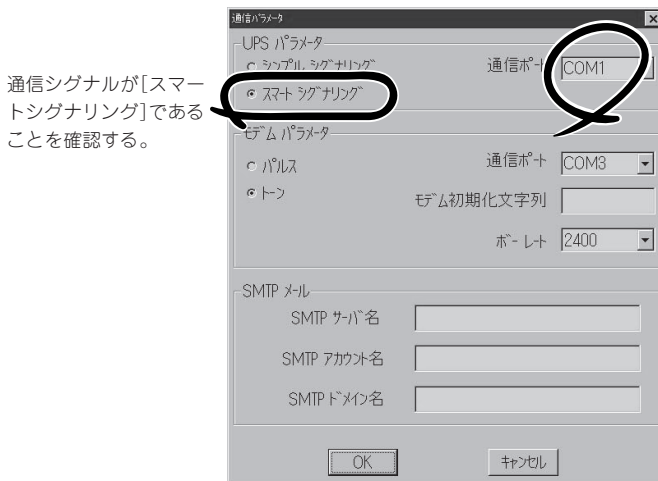
設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. ［スタート］メニューの［プログラム］－［PowerChutePLUS］－［PowerChutePLUS］を起動する。

   起動方法の詳細は、PowerChute *plus*の「オンラインヘルプ」、またはPowerChute *plus*に添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。

2. ［PowerChutePLUS］のメニューバーより、［構成］－［通信パラメータ］を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。

コンピュータとUPSの通信を行うCOMポート番号を正しく設定する。

3. 正しく設定した後、［OK］ボタンをクリックし、「PowerChutePLUS」のメニューバーより、［システム］－［別のサーバを監視］を選択し、再度監視するサーバを選択する。

4. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

PowerChute *plus*の新規インストール（再インストール）については、PowerChute *plus*に添付の「インストールガイド」を参照してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

Expressサーバをネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたExpressサーバをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、EXPRESSBUILDERにバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。
管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。

ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」を参照してください。

Global Array Manager Client

Global Array Manager(GAM)Clientは、GAM Serverと連携してMylexディスクアレイシステムを監視し、グラフィカルな画面で簡単に管理や操作をすることができます。

Express5800/110EeSではこのソフトウェアをサポートしていません。

GAM Clientの動作環境については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Client インストレーションガイド」を参照してください。GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にGAM Clientがあらかじめインストールされている場合もあります。GAM ClientがインストールExpressサーバに後からESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、環境設定をし直してください。環境設定については後述のGAM Clientの環境設定やCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」に記載しています。

購入時、Expressサーバにインストール済みのGAM Serverの設定内容についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

GAM Clientは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。
シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Global Array Manager」を選択してください。なお、シームレスセットアップでTCP/IPの設定をするようにセットアップ情報を設定してください。
シームレスセットアップでGAM Clientをインストールした場合で、後からESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、環境設定をし直してください。環境設定については後述のGAM Clientの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。
インストールに関する詳しい手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。
また、GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

GAM Clientをインストールする前に

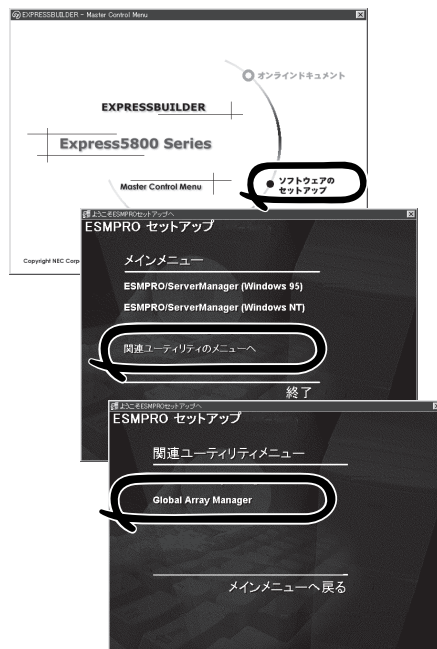
GAM Clientをインストールするときは、次の準備が必要です。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- Windows 2000/Windows NTのシステムにインストールする場合はAdministratorsグループでログオンしていること
- ESMPRO/ServerManagerのインストールが完了していること(ESMPROとの連携を行う場合のみ)
- マウスまたはその他のポインティングデバイスが使えること

GAM Clientのインストール手順

GAM Clientのインストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。

Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/MeではEXPRESSBUILDERのCD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ESMPRO]－［関連ユーティリティメニューへ]－[Global Array Manager]の順にクリックします。ここで表示される[セットアップオプションの選択]ダイアログボックスの[GAM Clientインストール]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックし、以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください(各ダイアログボックスでの推奨する操作を ヒントにまとめています)。

重要

- **Windows 2000/Windows NTのシステムにインストールする場合、インストール時はAdministratorsグループでログオンしてください。**
- **本装置の他にGAM Serverをインストールしたマシンをお使いの場合はオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。**
- **Windows NT 3.51をお使いの場合は、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。**

- [Setup Complete]ダイアログボックスが表示された場合はチェックボックスのチェックをすべてはずして[Finish]ボタンをクリックしてください。
- [セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます]はチェックしてください。

GAM Clientの環境設定

GAM Clientをインストールしたら、ここで説明する手順に従って環境設定をします。

ESMPROとの連携のための環境設定

GAM Clientは、ESMPROと連携させることで、ESMPROの統合ビューアのメニューから GAM Clientを起動できるようになります。

ESMPROと連携するための環境設定は、次の場合に必要です。

- GAM Clientのインストール時に環境設定を行わなかったとき
- GAM Cientの後にESMPRO/Server Managerをインストールしたとき

GAM ClientとESMPROを連携させるための環境設定は「コンフィグウィザード」を使います。「コンフィグウィザード」はGlobal Array Managerの環境設定を行うためのプログラムであり、起動するとESMPROと連携するための環境設定を自動的に行います。「コンフィグウィザード」は、GAM Clientのインストール先のディレクトリにある「configwz.exe」を起動することで動作します。

ショートカットの作成について＜Windows NT4.0、Windows95/98のみ＞

通常は、プログラムメニューからGAM Clientを起動してください。
新たにGAM Clientのショートカットを作成するときは、プログラムメニューにあるショートカットをコピーしてください。
エクスプローラなどからGAM Clientのショートカットを作成したときは、ショートカットのプロパティを以下のように修正してご使用ください。

- **リンク先の内容**

  <ｲﾝｽﾄｰﾙﾊﾟｽ>¥winact.exe /file=<ｲﾝｽﾄｰﾙﾊﾟｽ>¥gam2cl.act

  例）

  （変更前）"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥GAM2CL.EXE"

  （変更後）"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥winact.exe" /file=C:¥Program Files ¥Mylex¥GAM Client¥gam2cl.act

- **アイコンのファイル名**

  <ｲﾝｽﾄｰﾙﾊﾟｽ>¥gam2cl.ico

  例）

  （変更前）"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥GAM2CL.EXE"

  （変更後）"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥gam2cl.ico"

Windows NT 3.51にGAM Clientをインストールした場合のアイコンの作成方法についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。